



い さ む
ち ゃ ん

桜 田 佐

(五)

サーッサーッザワザワザワという大きな音がしました。それといっしょに上のほうから、チャラチャラチャラチャラ、チカチカチカという音がきこえてきました。

「いったい、なんででしょう？」

いさむちゃんはびっくりして、となりにこしかけているねこのたまちゃんにききました。

「あの音、なあに？」

「あ、あれですか。あのサーッサーッザワザワザワザワというのはね、山の木や森の木がわたしたちにあいさつをしているのですよ。サーッサーッいよいよお正月がきますね、今日は大みそか、ずいぶんにぎやかにたのしそうですね。いいお正月をおむかえなさい。ザワザワザワザワって言っているんですよ。」

「木にもこのさわぎがわかるんだね。」

「そりゃ、わかりますよ、ふだんはだまっていますけど、いろんなこと知ってるんですよ。」

「チャラチャラチャラチャラ、チカチカチカチカっていうのは」

「あれはね、お星さまがあいさつしてるんですよ。チャラチャラ

チャラチャラ、ねこさん、くまさん、うさぎさん、うれしそうです。ね。こんなに遠くにいてもあなたがたのさわいであるところがよく見えますよ。チカチカチカチカ、ごちそうがありますねえ。って言うてるんですよ。」

「ふーん、あんな遠くからここが見えるの？」

「そりゃ見えますよ、今夜は大みそかのぼんですもの。」

このとき、こんどはへやの外に、ブーブーブーという音がして、ブキューーといって車がとまりました。

入口の戸があいて、かばさんが顔を出しました。

「さあ、さあ、ゆうらんバスが出ますよ。富士山のとっぺんから、油の中まで見物する、ゆうらんバスです。ジャラン、ジャラン、ジャラン、ジャラン。」

かばさんがかねをならしています。

ジャラン、ジャラン、ジャラン、ジャラン、ジャラン、動物たちが、ワッって、バスをめぐけてとびだしました。

「ワンワンワンワン」

「ブーブーブーブー」

「ニャーニャーニャーニャー」

「モーモーモーモー」

「メーメーメーメー」

「ペーペーペーペー」

「ガーガーガーガー」

「コケーコッコッコッコ」

たいへんなざわざです。バスの小さな入口から先をあらそってのりこんで、

「すわれた、すわれた。」

「ここだめ、とつてあるんだよ。」

「こっちこっち、早く早く。」

と、車の中も大ざわざです。

いざむちゃんも、たまちゃんといっしょにのりました。

バスにのらないで、まだへやの中でごちそうをたべているのもいますし、もうグーグーねむっているのもあります。すみっこでこそそ話をしているものや、口でひょうしをとりながらダンスをおどっているものもあります。

ジリジリジリ、とベルがなりました。

「発車します。」

このとき、

「おい、まった、まった、のせてくれ——。」

と、いって、ぞうさんが、ずしんずしんとあるいてきました。

「もう、まんいんです、だめです。」

「そんなこと言わないのでのせてくれよ、たのむ、たのむ。」

「だって、もういっぱいなんですもの。」

「たったひとりだ、なんとかしてくれよ。」

「いくらひとりだって、あんたは大きいんですもの、十人分ぐらいありますよ。」

ぞうさんは大きなからだをちぢませて、泣きそうな声で、

「そんないじわる言わないのでのせてくださいよ。」

と、たのみました。

車の中からだれかが、

「おーい、のせてやれよ。」

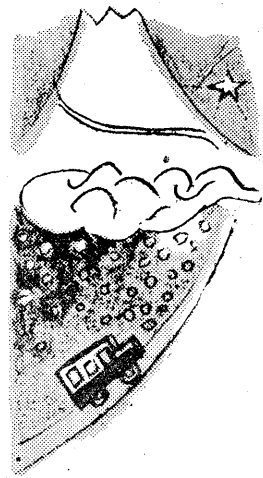
と、言いました。

みんなが少しずつおくへつめて、やっとぞうさんがのれました。

「やあ、ありがとう、すまん、すまん。」

「発車オーライ。」

ブギューといって、車は動きだしました。



(六)

おきやくさんをいっばいのせたゆうらんバスはブギューといつて、動きだしました。くらい夜道を走ります。しかし、空には、お星さまがたくさん、キラキラかやいています。お月さまもひかっています。

車はたいらな道を長いあいだ走っていましたが、そのうちのぼり坂になりました。あ、雪が降りだしました。まっ白な道をしばらく行つて、雲のかたまりをぬけました。

「ここが富士山のとっぺんです。」

リスくんが窓から顔を出しましたが、

「おお、さむい、さむい。」

と、いそいでひっこめました。

すると、しろくまさんが車からとびおりて、

「ああ、さむくていい気持だ。」

と、胸をそらせて、しんこきゅうをしました。

ひくいところに雲があつて、そのあいだからいろいろな山が頭を出しています。にんげんがおおぜいのぼつてきました。

「あれは、富士山で初日の出を見る人たちです。」

と、かばさんがせつめいしました。

ギーッ、ギーッと音がして、こんどは、くだりはじめました。

車はどんどん走ります。

「これから海へはいりますから窓をしめてください。」

みんな窓をびったりしめました。

なんだかまわりのようすがかわつてきました。あ、もう海の中にはいっています。たいやかつおが窓の外をおよいでいます。たこがおどりをおどっています。

「大みそかだから、たこもおどってるんだね。」

「や、うみがめがいるよ。」

そのとき、むこうから大きな黒いものがきました。

「あ、たいへん、大きくじらです。ぐずぐずしているとたべられま

す。」

車は向きをかえて、全速力で走りました。

くじらはどんどんおっかけてきます。

「あ、あぶない、あぶない。」

やつと海岸にさがりました。もうだいじょうぶです。車は畑のあいだを走っています。

あたりがすこし、あかるくなりました。

「あ、夜があける、夜があける。」

バスがとまりました。動物たちは大いそぎで車からおりました。いさむちゃんもびつくりしておりましたが、うちへ帰るのはどっちへいったらいいかわかりません。

「わたしがあんないしてあげますよ。」

と、ねこのたまちゃんが言いました。そして、ちょこちょこよこちよこ、ちょこちょこよこちよこちよこ、と走っていきます。いさむちゃんはそのあとから、とつとつとつとつと、あるきました。

「さ、あれがいさむちゃんのうちですよ、さよなら。」

いさむちゃんも、

「さよなら。」

と、わかれました。

うちへかえると、いさむちゃんは大いそぎでふとんの中にもぐ

りこみました。おとうさんもおかあさんも、となりのへやでねているようです。

そのうちおかあさんがおきて、朝のしたくをはじめました。それから、

「いさむちゃん、お正月ですよ。」

と、いさむちゃんをおこしました。い

さむちゃんは、

「はい。」

と、いいおへんじをして、すぐにおきました。

「おとうさん、おめでとう。」

「おかあさん、おめでとう。」

「いさむちゃん、おめでとう。」

三人はお正月のごあいさつをしました。そして、おぞうにをたべました。いさむちゃんの大すきなおぞうにをたべました。ゆうべはいろいろのごちそうをたべましたけれど、おぞうにはたべなかつたので、いさむちゃんはおぞうにをたく

さんたべました。

「ぼくね、ゆうべとてもおもしろかったの。ねこのたまちゃんがあんないして、動物のおうちへ行ったの。ごちそううんとたべて、ゆうらんバスで富士山にも

ぼつたし、海の中へも行ったよ。」

「そう、よかったのね。」

ちようどそのとき、

「いさむちゃん、あそぼう！」

と、げんかんで声がしました。

かずおくんとはる子ちゃんがむかえにきました。

「よしおくとこへ行くこう。」

あるきながらいさむちゃんは、かずおくんやはる子ちゃんにはなしました。

「ゆうべはとてもおもしろかったよ。ねこのたまちゃんがねえ……」（おわり）

（ここでは、終りにくかったら、お話をなさるかたが、もう少しつづけてください。）

幼児の教育 第五十八巻 第三号

◎ 定価五十円

昭和三十四年二月二十五日 印刷

昭和三十四年三月一日 発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番
◎本誌ご購入についてのご注文は発売所
フレーベル館にお願いいたします。